

「ため池保全県民運動」とは

兵庫県では「ため池の保全等に関する条例」に基づき、ため池や疏水の適正な管理と多面的機能の発揮の促進に向けた取組を県民一人ひとりがそれぞれの立場で実践していくことを「ため池保全県民運動」として展開しています。

○基本方針 — 「まもる」「いかす」「つなぐ」



ため池保全県民運動の集い 2021

～ ため池活用による地域防災を考える ～



日 時：令和4年2月10日（木）13：30～15：30

視聴方法：<https://zoom.us/j/93750929666>



※視聴はこちらから



●ため池保全県民運動ホームページ
<https://www.hyogo-tameike.com>



●フェイスブック
「ため池保全県民運動」ページ
<https://www.facebook.com/hyogo.tameike>



●ツイッター
「ため池保全県民運動」ページ
https://twitter.com/hyogo_tameike



主催：兵庫県ため池保全協議会 兵庫県 兵庫県土地改良事業団体連合会

プログラム

司会：稲垣 梨菜
(フラワープリンセスひょうご 2021)

13 : 30 開 会 挨拶

13 : 50 兵庫県のため池防災減災対策の取組

兵庫県農政環境部農林水産局農村環境室

14 : 00 住民と行政との協働によるため池防災

香川大学 創造工学部 創造工学科 防災・危機管理コース 教授 野々村 敦子

1998 年 3 月奈良女子大学理学部物理学科卒業、同年 4 月三重大学大学院生物資源学研究科に進学し、博士（学術）（三重大学）を取得。2003 年 4 月から香川大学工学部安全システム建設工学科に着任し、2018 年から香川大学創造工学部創造工学科防災・危機管理コースに所属。専門は空間情報工学で地理情報を活用した災害危険箇所の分析の研究を行っている。趣味は、まち歩き、地形観察。



14 : 25 ため池を活用した効果的な減災対策

○高砂市阿弥陀地区におけるため池活用

○淡路における治水対策の取組

コメンテーター

神戸大学大学院農学研究科 教授 田中丸 治哉

1982 年 3 月京都大学農学部農業工学科卒業、1984 年 3 月京都大学大学院農学研究科農業工学専攻修士課程修了、2007 年 4 月神戸大学大学院農学研究科教授、2016 年 10 月神戸大学自然科学系農学域教授（大学院農学研究科主配置）現在に至る。専門は水文学。河川流域における水の動きを水量・水質の両面から解明するとともに、洪水・渇水災害の防止法、ため池の事前放流による洪水軽減に関する教育研究を行っている。「河川流域の洪水・渇水予測に関する一連の研究」で平成 21 年度農業農村工学会賞（学術賞）を受賞している。



15 : 30 閉 会

○兵庫県のため池防災減災対策の取組

兵庫県農政環境部農林水産局農村環境室

県と市町は、「防災工事等推進計画」を策定し、決壊した場合に人命に被害を及ぼす恐れのある「防災重点農業用ため池」のうち、特に決壊リスクの高いと考えられるため池を優先して改修整備・廃止する防災対策を進めています。

あわせて、管理者意識の向上やため池の治水活用、ハザードマップの作成などの減災対策にも取り組んでいます。

地域の安全安心の確保のため、「兵庫県ため池の保全等に関する推進方針」に基づき、ハード・ソフト両面での防災減災対策を推進しています。

○高砂市阿弥陀地区におけるため池活用

今津 賢朗（高砂市上下水道部治水対策課）

長谷川 清隆（長尾水利組合 副組合長）

高砂市では、平成 23 年 9 月の台風第 12 号による甚大な浸水被害を契機として、「ながす」「ためる」「そなえる」総合治水対策に取り組んでいます。今回は、ため池を活用した治水対策について、阿弥陀地区を代表して長尾水利組合での事前放流や期間放流の取組を事例として、「これまでの成果」と「今後の課題」について報告します。



○淡路における治水対策の取組

吉川 満広（南あわじ市 神代國衛 花岡池田主 総代）

奥谷 和慶（兵庫県洲本土地区改良事務所 農村計画第 2 課長）

淡路島では、ため池が日本一密集していることを活かし、「島の水瓶『ため池』治水プロジェクト」として、台風前や非かんがい期に貯水位を低下させて下流域の洪水被害の軽減に取り組んでいます。

花岡池は、経営体育成基盤整備事業「国衛地区」の用水源としての整備を契機に、平成 28 年 1 月に総合治水条例に基づく「指定貯水施設」に県下で初めて指定されました。ため池水面を活用した太陽光発電にも取り組んでおり、これまでのため池保全にかかる取組を紹介します。

